

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	HX10	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.049	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：HX10

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

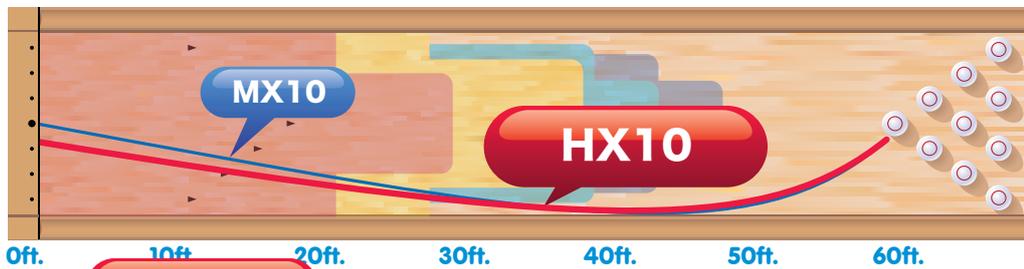
比較対照ボール：MX10

フレアーの幅 インチ

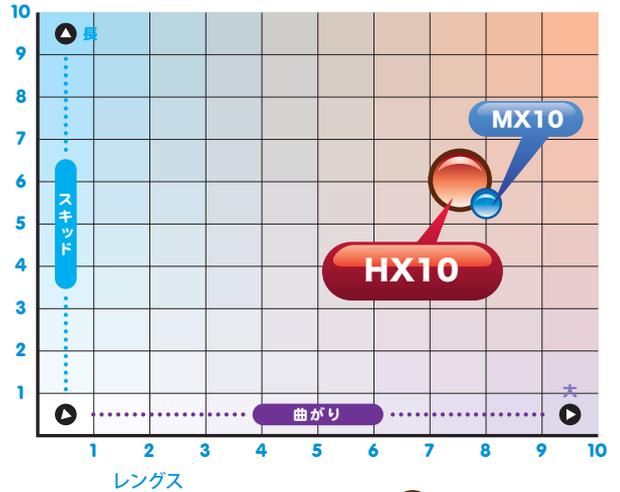
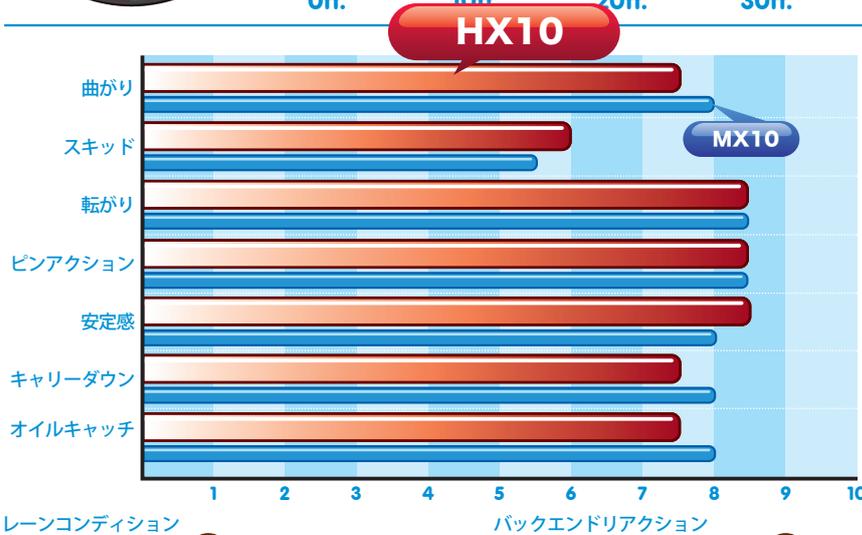
PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

TRACK社から新しく発売されるHx10は、Mx10で使用されたMR-6 Hybrid ReactiveをDR-6 Hybrid Reactiveに変え、アグレッシブな動きをだせるFace Coreとの組み合わせで仕上げられています。

第一印象で感じたのは、Mx10は見た目パールが主な素材で構成されていましたが、Hx10はどちらかというと透明感のないReactiveで、やや曇って見える表面からは「本当にH領域？」と思わせる仕上がり。実際にMx10とHx10双方を投げ比べてみると、さまざまな理由と意図が見受けられました。まずはカバーストックの変化における素材と表面加工の違いは、たとえばTRACK社がHというカテゴリーを”High-Rev”向けと位置付けた場合、回転数の多さからくるレーンとの摩擦との反応を”穏やかに”したいと考えたのではないかと感じました。というのもパール素材が主のカバーストックでは厚いオイルゾーンから薄いオイルゾーンでの反応差が大きくでてしまい、急激に向きを変えて暴れる原因の一つになる。それをやや曇らせるカバーで調整することで、オイルゾーンから薄いゾーンでの反応差が少なく、ナチュラルに均等に摩擦を感じられるカバーストックを採用したということでしょう。だからFace Coreというアグレッシブな動きをだせるコアでバランスが保たれているのだと思います。

さまざまなコンディションでHx10を投球してみると”H”という領域に留まらず、遅めのコンディションを中心に幅広い対応力を感じます。ABS専属の川添奨太郎もこのHx10の評価は非常に高く、今期このボールで優勝戦に絡む可能性があるかもしれません。

特記事項

DR-6 Hybrid ReactiveとFace Coreの組み合わせで、過剰な動きは抑えつつしっかりと安定した動きができる、ミディアムコンディション以下では是非持っておかなければならないボールだと思っています。